

診療科ごとの特徴と配慮ポイント

トイレの使用状況に関するアンケート調査は、対象となる9診療科の看護師さんたちに、2009年2月、3月の2回にわたり行い、その平均値をグラフにしました。

ヒアリング調査は9診療科ごとに行い、看護師28名、患者24名からデータを得ました。P.11でご紹介した「共通要件」以外の、診療科に特化した配慮ポイントを記載しました。

今回の共同研究を通して、診療科ごとの特性がある程度把握でき、それに対応するトイレ像が明確になりました。しかし一方で、最近では混合病棟化や診療科の配置転換などが増えているため、その対応には十分な検討が必要です。トイレ配置計画における目安として、P.11の基本プランの組合せや、ブース内器具の配置を参考にしていただければ幸いです。

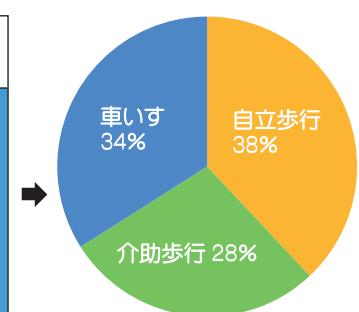
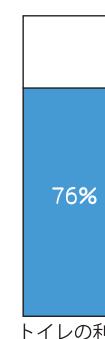
内科

■特徴

- 介助の割合が高い（約50%）
- 蓄尿の割合が高い（90%以上）
- リウマチ患者さんが利用する

■配慮ポイント

- 女性ブース、車いす介助ブースを多くする
- 蓄尿、採尿しやすさへの配慮
- 糖尿病による視力低下への配慮
- リウマチによる立ち座り困難への配慮



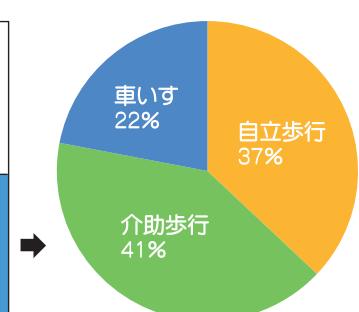
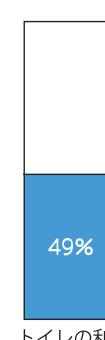
神経内科

■特徴

- トイレを使用できる患者が少ない（約50%）
- マヒのある患者がいる（10～15%）
- 認知理解力低下の患者がいる（10～20%）

■配慮ポイント

- 車いす、介助用トイレを多くする
- 左右対称の車いすトイレを設置する
- 転倒予防のための手すりを配置する



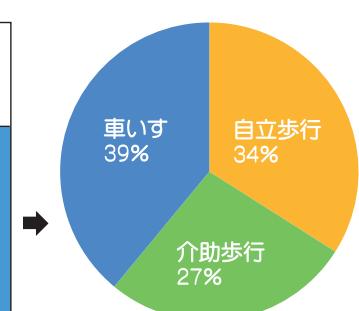
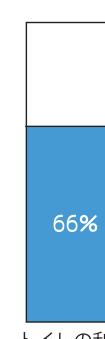
脳神経外科

■特徴

- 車いす介助の割合が比較的多い（約30%）
- マヒのある患者の割合が比較的多い（約35%）
- 認知理解力低下の患者がいる（10～20%）
- リハビリ中の転倒リスクの高い患者が多い

■配慮ポイント

- 車いす、介助用トイレを多くする
- 左右対称の車いすトイレを設置する
- 転倒予防のための手すりの配置



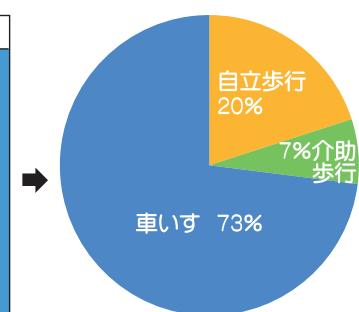
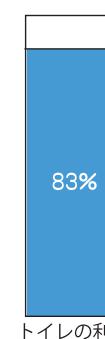
整形外科

■特徴

- 車いすの割合が高い（約73%）
- 子どもから高齢者まで年齢の幅が広い
- 脊椎損傷の患者がいる
- リハビリ中の転倒リスクの高い患者が多い

■配慮ポイント

- 車いすトイレを多くして左右対称に配置する
- 転倒予防のための手すりの配置
- つえや移動補助具の置き場に配慮する



泌尿器科

■特徴

- ・男性の割合が高い（約 80%）
- ・蓄尿の割合が高い（40～75%）
- ・オストメイトも稀にいる

■配慮ポイント

- ・男子トイレに大便器ブースを多くする
- ・蓄尿、採尿しやすさへの配慮
- ・粗相が多い。清掃性への配慮
- ・オストメイト設備への配慮



トイレの利用率とその内訳



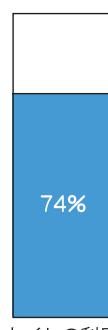
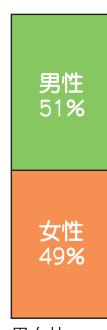
外科

■特徴

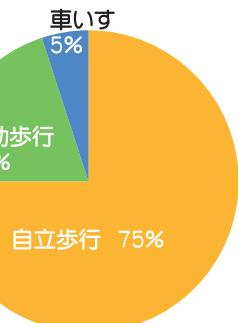
- ・点滴と蓄尿を同時にしている人が多い
- ・出血、嘔吐などの症状が多い
- ・自立て動ける人で転倒するケースもある

■配慮ポイント

- ・男子トイレに大便器ブースを多くする
- ・蓄尿、採尿しやすさへの配慮
- ・粗相が多い。清掃性への配慮
- ・オストメイト設備への配慮



トイレの利用率とその内訳



眼科

■特徴

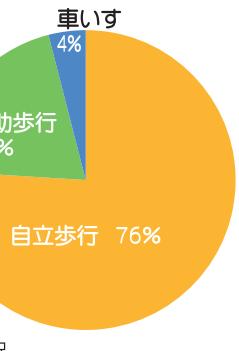
- ・トイレ使用率 100%、自立使用者が多い
- ・ものの距離感、認識がしにくい
- ・眼帯をしているため、片目しか見えない

■配慮ポイント

- ・コントラストをつけ認識しやすくする
- ・突起物、鋭利な物、段差による事故防止
- ・介助者が入れるスペースを確保する
- ・周囲を手探りする傾向があるため接触感染に注意が必要



トイレの利用率とその内訳



婦人科

■特徴

- ・トイレの自立度は高い
- ・トイレクレーム No. 1
- ・採尿、蓄尿の割合が高い（40～70%）
- ・手術、点滴、抗がん剤治療の患者さんが多い

■配慮ポイント

- ・におい、清潔さなど女性ならではの配慮
- ・不正出血、パッドの処理、ビデなどへの配慮
- ・まれにオストメイトの方もいるため配慮が必要



トイレの利用率とその内訳



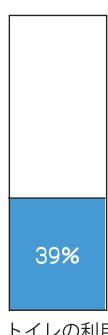
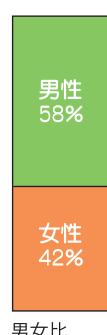
小児科

■特徴

- ・乳幼児から中学生まで体格差が大きい
- ・見守りや介助の割合が高い（50～80%）
- ・採尿、蓄尿の割合が高い（50～70%）

■配慮ポイント

- ・体格差にあわせた設備の配置
- ・おまるスペースの検討
- ・介助、見守りをするための配慮
- ・いたずら、ブース内閉じこもり対策が必要



トイレの利用率とその内訳

